



## 2026年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年1月29日

上場会社名 株式会社 Jストリーム 上場取引所 東  
コード番号 4308 URL <https://www.stream.co.jp/>  
代表者 （役職名）代表取締役社長 （氏名）石松 俊雄  
問合せ先責任者 （役職名）執行役員管理本部長 （氏名）竹見 嘉洋 TEL 03-5765-7744  
配当支払開始予定日 —  
決算補足説明資料作成の有無： 有  
決算説明会開催の有無： 有 （投資家・アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

### 1. 2026年3月期第3四半期の連結業績（2025年4月1日～2025年12月31日）

#### （1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％
2026年3月期第3四半期	8,847	△0.6	649	△22.7	680	△21.3	386	△24.6
2025年3月期第3四半期	8,902	4.8	839	60.7	864	59.4	512	73.1

（注）包括利益 2026年3月期第3四半期 431百万円（△23.3％） 2025年3月期第3四半期 561百万円（64.1％）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期第3四半期	15.53	—
2025年3月期第3四半期	20.59	—

#### （2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	％	円 銭
2026年3月期第3四半期	13,260	11,081	80.0	426.41
2025年3月期	13,185	11,058	80.1	424.82

（参考）自己資本 2026年3月期第3四半期 10,603百万円 2025年3月期 10,563百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	0.00	—	14.00	14.00
2026年3月期	—	0.00	—		
2026年3月期（予想）				14.00	14.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

### 3. 2026年3月期の連結業績予想（2025年4月1日～2026年3月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％	円 銭
通期	12,136	2.8	933	1.8	952	0.0	546	△0.9	21.96

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更： 無  
新規 ー社 (社名)、除外 ー社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2026年3月期3Q	28,057,400株	2025年3月期	28,057,400株
② 期末自己株式数	2026年3月期3Q	3,191,062株	2025年3月期	3,191,062株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2026年3月期3Q	24,866,338株	2025年3月期3Q	24,866,338株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー： 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 経営成績等の概況 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

１．経営成績等の概況 .....	２
（１）当四半期の経営成績の概況 .....	２
（２）当四半期の財政状態の概況 .....	３
（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	３
２．四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	４
（１）四半期連結貸借対照表 .....	４
（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	５
四半期連結損益計算書 .....	５
四半期連結包括利益計算書 .....	５
（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	６
（セグメント情報等の注記） .....	６
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） .....	６
（継続企業の前提に関する注記） .....	６
（四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記） .....	６

## １．経営成績等の概況

### （１）当四半期の経営成績の概況

当第３四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、緩やかな回復基調を維持したものの、世界的な金利高止まりや米国の関税対応についての不確実性、中国経済の減速、ウクライナ情勢などの地政学的リスクが企業活動や消費者心理に影響を及ぼし、物価上昇の影響もあり先行き不透明な状況が続きました。インターネット業界においては、生成AIの活用が進展し、コンテンツ制作や業務効率化を含む、DX（デジタルトランスフォーメーション）による新たな価値創出が期待される一方、IT人材不足やレガシーシステムの課題も依然として残っています。

こうした環境下、当社グループは動画ソリューション事業において、企業・団体の情報発信ニーズに応えるべく、インターネットライブ配信、オンデマンド動画配信、関連するシステム開発・運用受託等のサービス提供を継続しました。AIを利用した先進的機能開発と既存サービスへの組み込みを進めつつ、主力サービスである「ライブ中継サービス」や「J-Stream Equipmedia」を中心に、顧客の多様なニーズに対応した提案活動を強化しました。

販売面においては、戦略市場を医薬業界のEVC（Enterprise Video Communication）領域、医薬以外の金融等各業種のEVC領域、放送・メディアコンテンツ業界を中心としたOTT領域、と３区分して営業活動を展開しました。

EVC領域（医薬）においては、Web講演会用途のライブ配信や集客広告などの関連業務の受注が継続しているものの、薬価改定や製剤の上市状況の影響により、製薬企業のDX投資にばらつきが見られました。また講演会の発注先を複数ベンダーに分散する取り組みが広がっており、大口取引先の入札や単価動向に影響が表れています。当社大口取引先においては外資系企業の需要が比較的安定して推移したものの、内資系企業では前年を下回る需要となる企業が多く見られました。第３四半期連結会計期間においては、12月決算の外資系企業を中心に、期末を意識したWeb講演会の開催が増加したものの、前年には及ばない水準の推移となりました。当社グループでは、データ分析ツール「WebinarAnalytics」や生成AIを活用した字幕生成などの映像施策の提案、グループ会社による専門性の高いコンテンツ制作を組み合わせ、独自ルートでの案件獲得に努めました。マルチベンダー化が進む中、新規顧客への参入や中小顧客の取引規模拡大は進めることが出来ましたが、代理店経由の高単価案件の減少によりライブ配信案件の平均単価が下落したほか、映像制作案件の減少も重なり、領域全体としては前年同期を下回る結果となりました。

EVC領域（医薬以外）においては、リアルイベントでの動画利用や、企業・団体内部での動画利用が進んでいます。当社グループでは、教育・情報共有を目的とした動画活用事例の開拓に加え、社内外向けのウェブセミナーやオンラインイベント関連の受注獲得に注力しました。バーチャル株主総会関連受注については、特に６月の集中期において上場廃止やリアルとのハイブリッド開催に伴う運営負担の増加等の要因から市場全体で実施企業が減少しました。その他の用途においては、顧客のWebサイトシステムの構築や社内チャンネルの構築、広告運用の大口受注などがありました。前年に比較的大口の受注があったメーカーの販促イベントライブの反動減はありましたが、EVC領域全体としては前年同期を上回る結果となりました。

OTT領域においては、放送・メディア業界におけるシステム開発、サイト運用、関連する制作・運用業務、ならびに配信ネットワークの売上が中心となりました。顧客各社の動画配信サービスの拡大を背景に、当該領域ではシステム開発や高度なノウハウを必要とする運用業務に対して、引き続き安定した需要がみられました。前年に納品したシステム機器関連の運用案件や、配信システム更新に伴うシステム開発、視聴用アプリケーションの保守業務などにより、売上が伸長しました。放送局や専門チャンネル事業者に対するネットワーク売上について一部顧客に減少があったことに加え、前年のシステム機器の大口納品の反動から、前年同期の売上は下回ったものの、定常的受注を中心にOTT領域全体としては堅調な結果となりました。

費用面においては、新卒を除く新規増員採用を抑制し、経費の節減および組織運営の効率化に注力しました。サービス開発に伴うソフトウェアを中心とした償却費や、クラウドサービス利用の拡大に伴うロイヤリティ支出の増加はあったものの、ライブ関係の合理化や原価低減策が奏功しました。グループ会社を中心に内製比率の高い制作・サービス売上が順調であったこともあり、売上総利益率は前年同期比で0.4ポイント改善しました。販売費及び一般管理費については、営業支援にかかる費用、販売促進費、企業買収に伴う手数料、社内業務システムのライセンス費用やグループ会社のオフィス関連費用などが増加しました。

以上の結果、当第３四半期連結累計期間の業績は、連結売上高8,847百万円（前年同期比0.6%減）、連結営業利益649百万円（前年同期比22.7%減）、連結経常利益680百万円（前年同期比21.3%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益386百万円（前年同期比24.6%減）となりました。

なお、当社は、２０２５年１１月４日に株式会社アイ・ピー・エルＨＤの全株式を取得し完全子会社としました。本件株式取得により、株式会社アイ・ピー・エルＨＤおよびその子会社である株式会社 アイ・ピー・エルを当社の連結子会社とし、当連結会計期間より連結財務諸表を作成しております。

（２）当四半期の財政状態の概況

（資産）

当第３四半期連結会計期間末における流動資産は１０,５６０百万円となり、前連結会計年度末に比べ１２１百万円増加いたしました。これは主に流動資産その他に含まれる前払費用が増加したことによるものであります。

固定資産は２,７００百万円となり、前連結会計年度末に比べ４５百万円減少いたしました。これは主に有形固定資産が減少したことによるものであります。

この結果、総資産は１３,２６０百万円となり、前連結会計年度末に比べ７５百万円増加いたしました。

（負債）

当第３四半期連結会計期間末における流動負債は１,９９８百万円となり、前連結会計年度末に比べ２０百万円増加いたしました。これは主に未払法人税等が減少したものの、買掛金、未払金及び流動負債その他に含まれる未払費用が増加したことによるものであります。

固定負債は１８０百万円となり、前連結会計年度末に比べ３１百万円増加いたしました。

この結果、負債合計は２,１７９百万円となり、前連結会計年度末に比べ５２百万円増加いたしました。

（純資産）

当第３四半期連結会計期間末における純資産合計は１１,０８１百万円となり、前連結会計年度末に比べ２３百万円増加いたしました。これは主に配当金の支払により３４８百万円減少したものの、親会社株主に帰属する四半期純利益３８６百万円を計上したことによるものであります。

（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

２０２５年４月３０日に公表の連結業績予想から修正はありません。

## ２．四半期連結財務諸表及び主な注記

## （１）四半期連結貸借対照表

（単位：千円）

	前連結会計年度 (2025年３月31日)	当第３四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	4,432,698	4,279,073
受取手形、売掛金及び契約資産	2,102,992	2,152,366
仕掛品	98,085	79,450
預け金	3,400,001	3,400,001
その他	406,585	651,224
貸倒引当金	△1,181	△1,484
流動資産合計	10,439,180	10,560,630
固定資産		
有形固定資産	399,416	330,652
無形固定資産		
のれん	364,704	454,357
ソフトウェア	1,465,500	1,384,382
その他	6,634	7,508
無形固定資産合計	1,836,839	1,846,249
投資その他の資産		
投資有価証券	8,698	13,267
繰延税金資産	211,319	243,057
その他	300,634	278,212
貸倒引当金	△10,873	△11,093
投資その他の資産合計	509,779	523,444
固定資産合計	2,746,035	2,700,345
資産合計	13,185,216	13,260,976
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	20,491	64,829
１年内返済予定の長期借入金	1,500	35,971
未払金	590,753	649,279
未払法人税等	278,344	104,567
賞与引当金	98,458	94,626
その他	988,226	1,049,134
流動負債合計	1,977,774	1,998,407
固定負債		
長期借入金	4,125	31,649
退職給付に係る負債	18,213	15,753
資産除去債務	103,503	108,890
その他	23,456	24,706
固定負債合計	149,299	180,999
負債合計	2,127,073	2,179,407
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,182,379	2,182,379
資本剰余金	3,899,515	3,899,515
利益剰余金	4,786,382	4,824,451
自己株式	△306,115	△306,115
株主資本合計	10,562,162	10,600,231
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,531	3,033
その他の包括利益累計額合計	1,531	3,033
非支配株主持分	494,449	478,304
純資産合計	11,058,142	11,081,568
負債純資産合計	13,185,216	13,260,976

（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
（四半期連結損益計算書）

（単位：千円）

	前第３四半期連結累計期間 （自 ２０２４年４月１日 至 ２０２４年１２月３１日）	当第３四半期連結累計期間 （自 ２０２５年４月１日 至 ２０２５年１２月３１日）
売上高	8,902,396	8,847,873
売上原価	5,409,905	5,343,137
売上総利益	3,492,490	3,504,736
販売費及び一般管理費	2,652,863	2,855,290
営業利益	839,626	649,445
営業外収益		
受取利息	15,103	26,408
その他	13,256	8,625
営業外収益合計	28,359	35,034
営業外費用		
支払利息	1,007	1,312
支払保証料	2,160	2,260
その他	238	313
営業外費用合計	3,406	3,885
経常利益	864,579	680,593
特別損失		
固定資産除却損	0	28
特別損失合計	0	28
税金等調整前四半期純利益	864,579	680,564
法人税、住民税及び事業税	284,280	242,631
法人税等調整額	18,503	8,396
法人税等合計	302,783	251,027
四半期純利益	561,795	429,537
非支配株主に帰属する四半期純利益	49,675	43,339
親会社株主に帰属する四半期純利益	512,119	386,197

## （四半期連結包括利益計算書）

（単位：千円）

	前第３四半期連結累計期間 （自 ２０２４年４月１日 至 ２０２４年１２月３１日）	当第３四半期連結累計期間 （自 ２０２５年４月１日 至 ２０２５年１２月３１日）
四半期純利益	561,795	429,537
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	204	1,502
その他の包括利益合計	204	1,502
四半期包括利益	561,999	431,040
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	512,324	387,700
非支配株主に係る四半期包括利益	49,675	43,339

## (３) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等の注記)

## 【セグメント情報】

当社は単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第３四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第３四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第３四半期連結累計期間 (自 2024年４月１日 至 2024年12月31日)	当第３四半期連結累計期間 (自 2025年４月１日 至 2025年12月31日)
減価償却費	500,810千円	500,932千円
のれんの償却額	98,509千円	82,641千円